

電池パック・充電器一体化

アイケイエスが蓄電システム

【京都】アイケイエス（京都市中京区、今井尊史社長、075・251・8511）は、リチウムイオン電池パックと充電器を一体化した蓄電システムを開発、2010年2月から受注活動を始める。充電器に独自の電池監視制御機能を搭載し、充放電の効率化と安定化を図った。価格は非公表だが、数年内に容量1キロワット時当たり50万円以下に抑える予定。住宅や工場、電気自動車（EV）用急速充電器などの大容量蓄電ニーズに応える。

リチウム電池の安全確保

リチウムイオン電池は大容量になるほど、電圧や電流のきめ細かな管理が必要になる。アイケイエスは電池メーカーの生産ライン用充放電装置などを手がけており、ここで培ったリチウムイオン電池セル内部の電圧バランス調整技術や、電池セル単位で電圧・電流・電力容量を常時監視する機能で安全を確保した。

電池パック内には電力

容量300～11・8キロワット時の大容量リチウムイオン電池モジュールを、用途に応じて複数個並べ

る。モジュールサイズは標準の同2・35キロワット時、最大出力電流40アで、319ミリ×221ミリ×184ミリ、重量20キロ。モ

ジュールを構成する電池セルは低価格の韓国製を用いる。太陽電池メーカーなど複数社が興味を示しているという。

リチウムイオン電池を使う大容量蓄電システムは三洋電機が10年3月に発売予定で、トヨタ自動車も実用化を目指している。